

自然科学研究科 環境デザイン学専攻
【授与する学位】博士（学術）

大学（大学院）の目的	学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p>博士後期課程においては、科学技術分野における学術研究が専門化及び先端化の中で、「学際性」、「総合性」及び「独創性」に富んだ高度な研究者・技術者を養成することを目的とする。</p> <p>環境デザイン学専攻は、21世紀における地域環境の形成及び社会基盤整備においては、安全・安心な生活基盤の創出と環境・生態系への配慮を高いレベルで融和させた、調和的発展を志向する環境デザインの視点が求められる。そのため、本専攻では自然と調和した社会・環境基盤の創造を志向し、調査・研究、計画、設計・施工から維持管理、さらには廃棄物の処理や再生に渡る環境デザインの幅広い局面において、高い専門性と学際性を発揮し、社会基盤整備に関わる科学技術を教育研究し、持続可能で安全・安心な社会の発展に貢献できる、独創性豊かな研究者及び専門技術者を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】
<p>環境の世紀ともいわれる21世紀において、自然と調和した国内外の社会・環境基盤の創造を志向し、調査・研究、計画、設計・施工から維持管理、さらには廃棄物の処理や再生に渡る環境デザインの幅広い局面において、高度な専門能力及び自然科学または人文・社会科学などの学際性を駆使し、新規技術開発や人材育成を先導することにより、持続可能で安全・安心なグローバル化社会の発展に貢献できる、独創性豊かな研究者・技術者の養成を組織的に行う。上記の能力を身に付け、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格すること。以上を博士（学術）授与の主たる要件とする。</p>	<p>先端領域を含む国内外の高度な専門知識の修得と課題解決能力の強化に加えて、知的好奇心と生涯学修意欲の涵養、新規課題の開拓及び応用発展能力の育成に主眼を置いている。自然科学に加え、人文・社会科学に関連する学際領域にも課題探究の視点を広げることをつよく奨励するとともに、最先端の研究事例の分析や学会活動を通して、発展的思考力及び学際的知見を深化させ、研究開発能力を有する人材の育成を目指す。</p>	<p>21世紀における地域環境の形成及び社会基盤整備においては、安全・安心な生活基盤の創出と環境・生態系への配慮を高いレベルで融和させた、調和的発展を志向する環境デザインの視点が求められます。</p>
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
<p>(1) 高度な専門知識と先端的技術：環境科学または社会基盤工学に関する専門知識や先端的技術</p> <p>(2) 適切かつ独創的な課題設定能力：社会的な要請や自然環境の変化に対応した状況分析と課題設定ができる能力</p> <p>(3) 適切かつ独創的な課題解決能力：一連の実験技術、調査法、情報処理能力を修得し、上記課題設定に対して適切な方法を選択して応用することができる能力</p> <p>(4) 課題解決にむけて学際的かつ総合的に協働して実践する能力：自然科学または人文・社会科学などの異なる専門分野や価値観の人々と協働して課題解決に向けた計画的かつ組織的活動を実践できる能力</p> <p>(5) 国際社会を先導する自己表現力とコミュニケーション能力：論理的思考力とともに、グローバル化社会で先導するリーダーとしての自己表現能力とコミュニケーション能力、つまり、論理的記述、プレゼンテーション、ディスカッション能力</p>	<p>1.教育内容</p> <p>(1) 高度な専門知識と先端的技術を身につけるため、各種専門科目を設置する。</p> <p>(2) 適切かつ独創的な課題設定能力および課題解決能力を涵養するため、研究指導および博士論文の審査と最終試験を設置する。</p> <p>(3) 課題解決にむけて学際的かつ総合的に協働して実践する能力を身に付けるため、専攻共通科目を設置する。</p> <p>(4) 国際社会を先導する自己表現力とコミュニケーション能力を育成するため、大学院GS発展科目を設置する。</p> <p>2.教育方法</p> <p>(1) 講義科目は、各専門分野の教員によって提供され、最先端の研究を理解するために必要な知識、考え方などを修得し、研究意欲の高揚を図り、その専門知識を問う試験等の結果をもって評価する。</p> <p>(2) 特別研究・特別演習では、主任指導教員・副指導教員を置き、研究指導・助言を行う。なお、博士（学術）の学位を授与するのは、博士論文に工学分野だけでなく、自然科学または人文・社会科学の内容が含まれると認められる場合である。そのため、博士（学術）の学位を希望する場合は、論文内容や履修科目に関して注意を求める。</p>	<p>環境デザイン学専攻では、国内外の社会基盤整備に関わる科学技術を中心に、学際領域に対しても強い関心を有し、博士前期課程までに培った専門知識、あるいは、社会における多様な実務経験を発展させて、明確な倫理観と論理的思考をもって、人と自然に優しい社会基盤の創成を目指す統率力のある学生を求めています。</p>
【学修成果の評価】	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
<p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法をシラバスに明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。</p> <p>(2) 博士論文に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。</p>	<p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法をシラバスに明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。</p> <p>(2) 博士論文に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。</p>	<p>環境デザイン学専攻は、学力検査（口述試験）及び学業成績証明書により、環境デザインの専門分野に関する高度な専門知識、課題設定及び解決に関する志願者の能力や資質を総合的に評価します。</p>
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】
		<p>専門分野に関する高度な専門知識、研究遂行における課題設定・解決能力、及び専門的な研究討論が可能なコミュニケーション能力が必要です。</p>